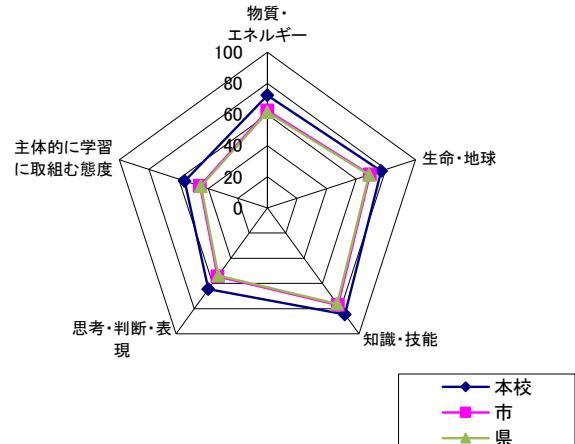


宇都宮市立瑞穂台小学校 第4学年【理科】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	72.3	62.5	61.5
	生命・地球	76.8	69.2	68.6
観点	知識・技能	84.6	77.2	76.3
	思考・判断・表現	64.5	54.4	53.7
	主体的に学習に取組む態度	55.9	45.5	44.9



★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	○良好な状況が見られるもの	●課題が見られるもの
		今後の指導の改善	
物質・エネルギー	<p>平均正答率は県・市の平均正答率よりも10.8ポイント上回っている。</p> <p>○「風やゴムのはたらき」、「電気の通り道」の内容はよく理解されている。</p> <p>●問題文から情報を正しく読み取り、実験の条件や実験の結果について考察したり理由を記述したりする設問の正答率が低い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 実験の「結果」と「考察」の違いを理解させるために、授業の中で自分の考えを記述したり意図的に話し合ったりする活動を取り入れる。その際、個人で考えたり、小グループで考えたり、全体で話し合ったりすることで思考力を高め、今後も実験に主体的に取り組む場を多く取り入れながら、知識の定着を図る。 	
生命・地球	<p>平均正答率は県・市の平均正答率よりも8.2ポイント上回っている。</p> <p>○植物や昆虫など、身近な自然に関連する内容を問う設問への正答率が全体的に高い。</p> <p>●「太陽と地面のようす」に関する設問の正答率が低い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 太陽の動きや影のでき方などの自然の事象について方位を意識させながら進んで調べようとする態度を育てる。 観察の結果、分かったことなどを自分の言葉で簡潔に説明をさせたり、キーワードを示した上で、それを文章に表現したりする活動を意図的に取り入れる。 観察を行った時には、クラス全体で結果をまとめ考察していくことで思考力を養う。 	